

居心地のよい公共施設に向けて

浅野健

多世代に親しまれる公共施設

最近、公共施設の再編整備に関する検討調査や計画づくりに関わる機会が増え、調査の対象として、あるいは出張や旅行などの機会を利用して各地の公共施設を訪れることが多くなってきた。これらは自分が行って見た

かった施設だからというのもあると思うが、かつての公共施設ではまず利用することはなかった中高生達が気

軽に利用するなど、子どもからお年寄りまで多世代が同じ空間を共有している場合が多い。そこで、これまで訪れたことのある施設の中から多世代に親しまれる公共施設の事例を幾つか紹介したい。

自治体の庁舎も市民の居場所

自治体の庁舎は、多くは個人の手続き以外にはまず利用しない施設で、市民に開かれた施設とはいえないがたい場合が多い。その中で、愛知県内でも犬山市庁舎と岩倉市庁舎のように、市民が利用できるテーブルやイスと自動販売機もあり、カフェも併設された事例が出てきた。平日の昼間はお年寄り、夕方は中高生が利用しており、岩倉市役所では一・二階を土日も開放し市民の居場所となっている。

図書館を核とする複合施設

近年、集客力がある機能として図書館が注目されており、他の機能と複合化することで相乗効果を生み出す施設の事例が各地に出てきている。

筆者の身近な事例としては、二〇一五年夏にオープンした「みんなの森ぎふメディアアコスモス」(岐阜県岐阜市)

がある。図書館、市民活動交流センター、多文化交流プラザが併設された施設で、二〇一六年度には年間百二十六万人が来館した。施設全体は平日午後九時まで利用でき、いつ行っても閉館時間まで高校生や大人の利用が絶えない。二階の図書館をはじめ随所にいろんなタイプのテーブルやイスが配置され、利用者の話によると、自分が好きな居場所を見つけて利用している人達も少なくないようだ。

「武蔵野プレイ

ス」(東京都武蔵野市)は、地下三階、地上四階建て。一階中央にカフェが配置され、地下二階は青少年活動、地下一階から地上二階は図書館、地上三階四階は市民活動や生涯学習機能を有し、垂直方向に上手くゾーニングされて、多様な世代の居場所が用意されている。鉄道駅に近接し、施設の前には都市公園も設置され、都会の中のアオアシスのような空間だ。



都市公園が隣接した都会の中のアオアシスのような「武蔵野プレイ

市民参加を必須に

今回紹介したのはほんの数例だが、各地の居心地のよい公共施設を見た中で多くに共通しているのは、設計時から運営後も継続して市民参加を取り入れていることだと思う。全国で自治体で公共施設の老朽化が進む中、施設の再編事業を検討する際には、市民参加のプロセスを必須にするべきだと、個人的には考えている。



平日夜も多くの人が利用する「みんなの森ぎふメディアアコスモス」